

平成 28 年度国庫補助事業：中央アジア地域等貿易投資促進事業
投資環境整備・ビジネス振興事業（４）産業育成ビジネスマッチング事業
１）派遣型ビジネスマッチング「アゼルバイジャン・インダストリアル・パーク
視察ビジネスマッチング」実施概要

2017 年 2 月
一般社団法人 ロシア NIS 貿易会（ROTOBO）

１．産業育成ビジネスマッチング事業の目的

本事業は、日本と中央アジア等地域との間の貿易・投資関係の発展と、対象国の産業多角化ならびに市場経済化促進に資することを目的とする「中央アジア地域等貿易投資促進事業」の一環である。原燃料・一次産品生産に特化した単純な産業構造を擁する中央アジア諸国にとって、産業多角化が長期的経済発展を図る上で不可欠の要件であるとの認識に鑑み、これを日本企業とのビジネスマッチングを通じて支援する。日本における事業パートナーの発掘を望む現地の業界団体・企業グループの訪日、あるいは同様に現地における事業パートナーとの出会いを望む日本の企業団体等の現地渡航を、情報提供や然るべき企業の紹介等によってサポートし、双方の交流活発化による貿易・投資促進を図る。

特に、原料基盤を生かした加工業、資源開発のサポーティング・インダストリーとなる機械製造業等、対象国に適合した製造業分野の企業と、加工度の向上や環境適応能力の向上につながる高度技術を擁する日本企業をマッチングさせることにより、前者には生産性や品質の向上、後者には新たなビジネスチャンスとなる双方ウィンウィンの関係構築を目指す。

平成 28 年度は中央アジア地域等諸国の在京大使館ならびに ROTOBO の現地パートナー機関、また現地の日本センター等を通じて現地側より案件の募集を行い、書類審査により招聘あるいは派遣案件を選定する。

２．派遣型ビジネスマッチング

１）経緯と事業概要

平成 28 年度は 5 月 11 日に案件募集を、中央アジア地域等諸国の在京大使館および現地パートナー経由で開始した。6 月 15 日に締め切り、同月末まで案件審査、追加情報の収集等を行った結果、受入型ビジネスマッチングの対象 2 グループを選定したが、派遣型には相応しい対象を得られなかった。

一方、本事業の対象国のうちアゼルバイジャンについては、二国間経済委員会の存在が示すとおり、同国に対する日本企業側の関心は比較的高いにもかかわらず、これまで産業育成ビジネスマッチング事業の対象となったことはなかった。石油依存からの脱却を目指す同国は、2011 年から国内に 7 カ所の「インダストリアル・パーク」ならびに「ハイテク・パーク」を創設、石油精製、化学、機械製造、製薬、軽工業、ICT・通信等、各種産業の誘致・育成に努めている。これら経済特区に対する日本企業の関心を喚起し、進出を支援することは、日本企業とのビジネスマッチングを通じて相手国の産業多角化を支援するという本事業の目的に完全に合致する。

また、平成 29 年 2 月 23 日にはバクーにおいて第 9 回日本アゼルバイジャン経済合同会議の開催が予定されているが、これに時期をあわせて代表団を派遣することにより、合同会議の参加者の増加、特に日本アゼルバイジャン経済委員会会員企業以外の参加促進に繋がることが期待できる。二

国間経済委員会の活動は、両国の貿易・投資関係の発展への貢献において高く評価されており、その円滑な運営に協力することが、中央アジア地域等貿易投資促進事業の目的に合致することは言うまでもない。

上記に鑑み、平成 28 年度の派遣型ビジネスマッチング事業として、アゼルバイジャンの「インダストリアル・パーク」視察と、パークの運営機関・登録企業との情報交換・交流を目的とする代表团（以下、視察団）を派遣することを決定した。

1 月前半に日本国内およびロシア等近隣諸国に事務所をもつ日本企業等に対して参加募集を開始、総勢 10 名程度の視察団を組織した。なお、視察団参加企業は、第 9 回日本アゼルバイジャン経済合同会議にも出席、情報収集を行った。

2) 派遣日程 平成 29 年 2 月 21 日（火）～2 月 26 日（日）6 日間

No	日付	時刻	日程	宿泊地
1	2/21(火)	13:10 17:35	成田発(SU261) モスクワ SVO 着	機中/バクー Park Inn
2	2/22(水)	00:55 04:55 15:00-15:30 16:15-17:00 19:00	モスクワ SVO 発(SU1852) バクー着 【視察①】ハイテク・パーク ■ハイテク・パーク・プレゼンテーション(於:ビジネス・インキュベーションセンター) ■ピラヒ・インダストリアル・パーク予定地視察(Pirallahi 島) 合同会議結団式@大使公邸	バクー Park Inn
3	2/23(木)	終日	■第 9 回日本アゼルバイジャン経済合同会議	バクー Park Inn
4	2/24(金)	10:00-12:30 15:15-16:15	【視察②】バクー近郊インダストリアル・パーク ■スムガイト・化学インダストリアル・パーク視察 (化学、石油化学、製薬、機械製造他) 10:00-11:05 SCIP についてのプレゼンテーション 11:05-12:00 Azertexnolayn 視察 12:00-12:30 SOCAR Polymer 訪問 ■バラハニ・インダストリアル・パーク視察 (リサイクル、グリーンマテリアル関連技術) 15:15-15:45 バラハニ・インダストリアル・パークの説明 15:45-16:15 バクー廃棄物発電プラント視察	バクー Park Inn
5	2/25(土)	16:05 18:25 20:00	バクー発(SU1855) モスクワSVO着 モスクワ発(SU260)	機中泊
6	2/26(日)	11:40	成田着	

宿泊先

◇バクー：Park Inn by Radisson Azerbaijan, Baku

住所： 1 Azadlig Avenue, Baku, AZ1000, Azerbaijan

電話： +994 12 490 60 00

URL： <https://www.parkinn.com/hotel-baku>

3. 概要

■ハイテク・パーク・プレゼンテーション

日時：2017年2月22日（水）15:00～15:30

場所：ビジネス・インキュベーションセンター5階

参加者：セイムル・アガエフ アゼルバイジャン・ハイテク・パークCEO

カナン・バイラモフ アゼルバイジャン・ハイテク・パークCEO代理

シャヒン・タギザデ 計画・管理部長

グナイ・ジャファルグリエヴァ ビジネス開発・投資部門専門官

ハイテク・パークについてのプレゼンテーション（アガエフ最高経営責任者）

- ・アゼルバイジャン側出席者の紹介
- ・2012年に大統領令によって始動。情報技術開発のための国家基金（ICT基金）も同年始動。
- ・スムガイト市近くの敷地（30～50ha）を予定していたが2013年にピラヒ島（50ha）に変更された。
- ・ビジネス・インキュベーションセンターからスタート。
- ・2014年、ICT基金は31のプロジェクトに70万ドルを付与。
- ・メインはITで、通信・ハイテク省の下でロボットメカニクス、モバイルテクノロジー（すでにくつかり事業がある）、テレコミュニケーション、代替エネルギー、航空宇宙産業などを事業の対象とする。アゼルコスモスの協力もある。
- ・敷地のデザインプランはすでに終了しており、近い将来建設を開始する予定。
- ・ヨーロッパの投資家の協力によるインフラ、ベンチャーキャピタルテクノロジー、ビジネスアクセラレーションといった3つの基金の可能性はある。
- ・すでに最初の居住企業（IT系）を受け入れた。
- ・居住企業には法人税、固定資産税、土地税、付加価値税、関税の免税措置や、国の保証があり、今後さらに魅力的な内容となるだろう。
- ・我々が投資家に求める協力の方法は3つある。一つ目はインフラ基金、二つ目は三菱電機のようなすでに製造や組立ラインをもつ企業の入居、三つ目は新規企業の事業への直接投資。（シャヒン・タギザデ 計画・管理部長より補足）
- ・アゼルバイジャンは地理的に重要な位置にあり、中国～ヨーロッパ、ロシア～イランなど輸送のハブである。アゼルバイジャン国内市場だけでなく他地域の市場への輸送アクセスがある。
- ・周知のことと思うが、政府は石油経済から非石油経済へと転換をしているので、我々はテクノパークやインダストリアル・パーク、化学パークによって支援をしたい。
- ・ハイテク・パークはまだ新しい地域だが、我々は先駆者としてどんな企業の参加も歓迎している。1994年に初めてアゼルバイジャンに進出した企業のように成長できる可能性がある。だから我々はハイテク企業に最初の居住者となるよう誘致をしている。（シャヒン・タギザデ 計画・管理部長より補足）
- ・もし今後市場調査の支援が必要なら協力は可能。

質疑応答

(Q) なぜ市の中心部ではないピラヒ島を選んだのか。

(A) ピラヒ島はアゼルバイジャンで最大の島。軽工業に向いていると考えたから。実際にはピラヒ島は石油採掘に従事する労働者のための島だったが、石油経済からの転換にあたりその場所としてピラヒ島を選ぶことは象徴的となる。計画では観光センターや大学などの部門も作られる予定。またシティセンターに主にソフトウェア、IT企業を対象にしたイノベーションタワーを建

設する計画もある。数か月内に情報を出す予定。企業設立や工場建設のスタートアップとしてトレーニングセンターを作る予定。

(Q) ITスタートアップというのはどのようなタイプ、種類のものか？

(A) モバイルテクノロジー、インターネットテクノロジー、ソフトウェア、若者向けのモバイルアプリケーション、ゲームなどのプロジェクト。代表的なのは25のプロジェクト。

(Q) ハイテク関係の企業ならどのような企業でも入居できるのか？

(A) 革新的なハイテク企業なら可能。ハイテク設備や部品の製造や組立てならまず確かだ。我々が運営する、バクーから300～350kmのミングチャウル・ハイテク・パークにはすでに居住企業があり、コンピュータの部品製造を行っている。最も成功している事業は旅行のプラットフォーム「We Travel」で、インキュベーション・センターで開始し、現在シリコンバレーに市場をもつ。このほかいくつかのレストランビジネスをしているとても可能性のあるプロジェクト。彼らはバクー大学から協力パートナーとして専門家を呼んでいる。もう一つは「Spinal」事業で、特別なモバイル機器「SIT」を開発した。座る姿勢が悪い時にアプリを通じて通知が得られるというもの。このチームは今ポーランドの発展基金で将来ゲーム事業を加速させるための共同経営者を誘致している。これらのゲーム事業の中で最も大きな額のものは800万ドルを超える。

■ピララヒ・インダストリアル・パーク予定地視察

日時：2017年2月22日（水）16:15～17:00

場所：ピララヒ・インダストリアル・パーク予定地（Pirallahi島）

対応：シャヒン・タギザデ計画・管理部長

内容：

- ・すでにビジネスセンターやトレーニングセンターの土地を確保している。2haの広さ。
- ・（建築済みの建物を指して）ここはショールームになる予定で、ショールームには建設時にハイテク・パークの模型を飾ったり、モニターを置いて説明のビデオを流したりする。今はまだ何もない。
- ・投資家が製品製造の覚書を締結した場合、我々がその製品について確認した後、土地を貸し出す。もちろん価格は自由競争によるものではない。我々の目的は利益を上げるのではなく居住企業を集めることにある。これとは別に第一の段階としてインフラへの投資も募っている。55,000m²の土地があり、事業開始の準備はすでにできている。
- ・ハイテク・パークへの道にはすでにレストランやホテルなど娯楽施設の建設も始まっている。

■スムガイト・化学インダストリアル・パーク視察

日時：2017年2月24日（金）10:00～12:30

場所：スムガイト・化学インダストリアル・パーク（SCIP）

参加者：ナズィム・タリボフ社長

エルハン・シリエフ投資家関係・ビジネス支援部部長

サミル・ママドフ投資家関係・ビジネス支援部ビジネス支援課課長

アヤズ・アラフベルディエフ投資家関係上級専門家（化学部門）

タリボフ代表、挨拶

- ・スムガイト市、インダストリアル・パークへの歓迎の挨拶。
- ・アゼルバイジャン側出席者の紹介。
- ・日本はアゼルバイジャンにとって協力の深い、優先順位の高い国。
- ・スムガイトはバクーに次ぐ二番目に大きな都市。SCIPは2011年12月21日付けの大統領令によって設立

された。アゼルバイジャン初のインダストリアル・パーク。現在アゼルバイジャンには5つのインダストリアル・パークがあり、そのうちの4つはSumgait Chemical Industrial Park LLC（経産省傘下）によって運営されている。

- ・土地面積、投資額でSCIPはアゼルバイジャンで最大のインダストリアル・パーク。総面積は466ha。半分以上の土地ですでに入居企業が決まっている。
- ・これまでの総投資額は11億ドル。
- ・最初の入居企業であるAzertexnolaynは2013年に入居した。
- ・入居企業の中で最も多くの土地面積をもち、投資を行っているのはSOCAR Polymerで、面積は35ha、総投資額は7億7,800万ドル。
- ・現在SCIPには9社が入居しており、2017年中にこのうちの4社が実際に製造を開始する予定。2018年にさらに3社が製造を開始する予定。

SCIPについてのプレゼンテーション（サミル・ママドフ課長）

- ・SCIPはイノベーション、ハイテクノロジーによる工業生産の競争力の成長、事業の促進・企業支援、非石油部門の安定的な成長、雇用拡大などを目的に設立された。
- ・スムガイトはバクーから約35kmの場所にあり、人口は40万8,000人。ソ連時にはスムガイトで石油化学製品の40%以上が生産され、今でも工業の中心地として知られている。
- ・SCIPの総面積は466.37haで、雇用の概数は5,000～7,000。
- ・アゼルバイジャンはアジアとヨーロッパを結ぶ好立地に位置する。2017年に完成予定のバクー～トビリシ～カルス鉄道プロジェクトもあり、中国からバクーまで7日間だと聞いている。また、ここから2kmの場所に作られる自由港、またSCIPから250mの場所に作られるアゼルバイジャンとロシア結ぶ高速道路（Baku-Quba highway）も重要。このように輸送インフラがあり、ヨーロッパやジョージアへ、またイランのバンダルアバス港からは中東へ、アクタウ港からは中国や東アジアへ製品を輸出できる。
- ・SCIPは工業区域と社会区域に分かれており、社会区域は日本を含む世界の主要なインダストリアル・パークを参考にしている。社会区域には事務局やスポーツエリア、研究所、職業訓練学校などの施設が建設される。職業訓練学校ではメカトロニクス、化学、建築などの約30の職業の知識を学ぶことができる。社会区域については居住予定の企業のニーズに応えたいと考えている。職業訓練学校を発展させるため、ドイツのシュトゥットガルト大学との協力した二つの教育モデルが適用される。
- ・物流センターには既製品や原料などすべてのものが運ばれ、製品輸出までの保管庫となる。
- ・投資家へのサポートサービスとしては、投資情報の提供、組織的サポート（ビザ手続きや宿泊・交通手配）、設立時のサポートがあり、ポイントは「One-stop-shop」で、居住企業は申請などの手続きを、政府機関の段階を踏まず直接SCIPにすることができる。また事業を開始する際に必要なすべての許可取得をSCIPがサポートする。
- ・税務については現在、一つの電子統合システムを開発するため、省庁、関税当局と業務にあたっている。
- ・政府系、また民営投資企業からの資本支援組織となるのはアゼルバイジャン投資会社（AIC）、カスピアン・インターナショナル・インベストメント（CIIC）、その他銀行など多数の民営投資企業。なかでもアゼルバイジャン投資会社は全プロジェクト資金の25%までの再融資が可能。
- ・入居企業への免税については、法人税、資産税、土地税、そして設備・機器の輸入にかかる関税、付加価値税が免除になる。（7年間）すでに入居企業に対する関税率を引き下げる案もあるが検討中の段階で2017年中に決定する予定。

- ・アゼルバイジャンの利点は、原料が豊富にあること。SCIPには石油・ガスの販売企業やプラントがあり、ポリマーやポリプロピレン、メタノールなどの原材料を使用できる。主な製造者は近くにあるPetrochemicalsや“Azerikimya” PU、2018年に建設完了予定のUrea Plant、またHeydar Aliyev Baku Oil Refinery、Azerneftiyagh Oil Refinery、Methanol Plant。SOCAR OGPC（ガス化学コンプレックス）プロジェクトについては2021年に行われる予定。
- ・現在の居住企業について。

Azertexnolayn（2013年～）：さまざまな大径パイプや高圧耐性の水工学設備・機器、ポリエチレンパイプを製造している。敷地は30ha。

SOCAR Polymer：最大の石油化学企業で1940年代から巨大なプラントを所有し、主要なヨーロッパ、カナダ、アメリカの技術を使用している。生産力はポリプロピレン、高密度ポリエチレン合わせて年間30万tを超える。

AzerFloat CJSC：建材用のガラス版の製造。

Azerbaijan Fibro Cement LLC：ファサード材、屋根用建材のセメント板製造。

Baku Non Ferrous and Foundry Co. LLC：フェロシリコン、フェロシリコンマグネシウム製造。生産力は合計で年間5万6,000tの見込み。

MST Engineering Services LLC：高圧ホース製造。規模は小さいが主な取引先はSOCARやBPなどの石油企業である。

SIKA LLC：SCIPで最初の海外入居企業であるスイスの企業。コンクリートなどの建材の原料製造を予定。一度5～6年間SIKA本社のディストリビュータをしていたことはあるが、今回は会社を設立し自身で売り出すことを決めた。

Aqrokimya：アゼルバイジャンは5,000万ドル以上の殺虫剤を海外から輸入していたが、Aqrokimyaの設立により国内生産が可能になり、国内のすべての農業区域をカバーできるようになる。

ALCO LUBRICANT COMPANY LLC：ドイツの技術をベースにした潤滑油の製造。初期段階では年間3万tの製造を予定している。
- ・SCIP LLCが運営を行う他のインダストリアル・パークについて。

ミンゲチャウル・インダストリアル・パーク：バクーから350kmに位置する約14haの小さなインダストリアル・パーク。主な工業分野は織物などの軽工業。現在建設中。

ガラダフ・インダストリアル・パーク：スムガイトから60～70kmに位置する。造船、船舶修理に特化。居住企業は“Baku Shipyard”（2015年～）。主にタンカーやプラットフォーム補給船を製造。またBPとの契約で特別な海上デッキを調査する船舶の製造も行う。

ピララヒ・インダストリアル・パーク：バクーから60km。製薬分野に特化。予定されている居住企業には“Hayat Farm” LLCと“Caspian Pharmed” LLCがあり、これらの企業は錠剤やカプセル剤を製造予定。“Hayat Farm” LLCはアゼルバイジャン企業とロシア企業の合弁企業で、“Caspian Pharmed” LLCはアゼルバイジャン企業とイラン企業の合弁企業。これ以外にも多くのヨーロッパ、アジアの企業と交渉している。アゼルバイジャンの製薬分野の発展においては日本企業の大きな協力もある。

質疑応答

- (Q) 最初は国内市場向けを考えているということか。
- (A) 輸出目的の企業を前提としている。アゼルバイジャンは約950万人の人口しかない小さな国で市場が小さい。一方で近隣の市場は人口4億人を超える。また入居企業も大きな工場を建設しているので輸出をするのが正しいと考えている。
- (Q) 輸出を想定しているとする現在ある9社は輸出をしようとしているのか。中央アジアなどターゲットとしている国を具体的に教えてほしい。

- (A) 第一は国内市場だが、価格競争力があれば中央アジア、イラン、トルコ、ロシアにも輸出したい。これは価格による。
- (Q) どのようなフィールド、産業分野を想定しているのか。
- (A) スムガイトは工業団地なので第一には石油化学分野、あとは機械製造、建材用化学製品、医薬品。医薬品分野はとても重要で、そのためにピララヒ・インダストリアル・パークが作られる。
- (Q) 5つのうち4つのインダストリアル・パークをSCIPが管理しているということだが、もしある企業がインダストリアル・パークに入居を決めたら、その企業の事業分野によって場所が選別されるという理解でよいか。
- (A) まず4つのインダストリアル・パークは経済産業省の傘下にあるということを指摘しておきたい。入居を希望する企業は分野ごとに分けていくことになる。我々SCIP LLCがまず経済産業省の傘下にあり、SCIP LLCがスムガイト、ミングチャウル、ピララヒ、ガラダフ・インダストリアル・パークを運営している。5つ目のバラハニ・インダストリアル・パークも経済産業省傘下ではあるが、SCIP LLCではなく“Tamiz Shahr” Open Stock Companyが運営している。
- (Q) 最初からマーケットリスクを抱える形で投資を行うというのは外国の民間企業にとっては難しいと思うが、投資後、生産物を国内市場向けに売る際など、すべてのリスクは投資企業が負わなければならないのか。国内市場がこれだけあるから投資家には優遇してこれだけ与えられるとか、そのようなベースになるような施策はあるのか。
- (A) 我々が投資家に対し言っている優遇措置は、7年間の税制の優遇措置、そしてインフラはすでに整っているということ。通常、初期費用の30%がインフラ費用だがこれがかからないのは大きなメリットである。市場については、通常すでに特定の国内・国外市場をもっている企業が入居する。SCIP LLCは100%国営企業。
- (Q) つまり市場リスク軽減の肩代わりのような施策はないということか。
- (A) ない。
- (Q) では入居希望企業に対して、市場調査のサービスはあるのか。
- (A) 許認可やビザ取得手続きの協力は可能だが、市場調査協力は我々では行っていない。しかし質問に対しどこに相談すればよいかというアドバイスをすることは可能。また経済産業省の傘下なので経済産業省の統計データは提供可能。
- (Q) 免税措置の7年というのはどのタイミングから7年なのか。
- (A) 入居の登録から7年。
- (Q) 入居企業について、2017年、2018年に新しく企業が入居するとのことだがどういった企業か。
- (A) それらの企業はすでに入居している企業で、2017年に4社、2018年に3社が稼働するという意味。
- (Q) では今後入居する予定の企業の情報があれば教えてほしい。
- (A) 今交渉をしている中にはウクライナやイギリス企業、アゼルバイジャン企業があり、主な分野は農業や農薬、あとは医薬品。

11:00-12:00 Azertexnolayn視察

研究所 (SMS Laboratory) 視察

対応：オルハン・ママドリ研究員、ニガル・アスラノヴァ研究員

- ・ 研究所はAzertexnolayn LLCの中で独立して運営されている。アメリカ石油協会の証明書をもつ。
- ・ 金属分析やメカニカル・アイソレーション領域をカバーしている。
- ・ ポリエチレンを原料としたサンプルの収集・登録の他、化学組成機による調合サンプルの作成、ポリマーの引張試験やシャルピー衝撃試験、化合促進試験などの実験、金属分析を行っている。
- ・ 研究所はBPやSaipem、Aspenなど20以上の企業と仕事を行っている。

質疑応答

- (Q) すでにここから製品を輸出しているか。国内市場をターゲットにしているか。
- (A) 海外だとトルクメニスタンに輸出している。ジョージアやカザフスタン、ロシアも予定している。もちろん国内市場もターゲット。
- (Q) 工場はロシアではなくアゼルバイジャンに建てるのが有利か。
- (A) アゼルバイジャンは投資環境が良くなっている。ロシアは免税が多いので資金が得られるだけ。
- (Q) 競合するインダストリアル・パークはあるか。
- (A) ジョージア、イラン、ロシア、カザフスタン、トルクメニスタン、トルコといった近隣諸国のインダストリアル・パークと競合している。最もインセンティブがあるのはアゼルバイジャンだと言える。

鉄鋼パイプ工場・Technical Equipment Plant視察

対応：トフィク・ママドフ代表

- ・ 敷地内にはオフィスエリア、トレーニングスクール、クリーニングエリアもある。
- ・ 鉄鋼パイプ工場では主にスパイラル鋼管（油井管）の製造を行う。年間生産力は20万 t。
- ・ Technical Equipment Plantではバルブ、バタフライバルブ、マンホールカバーなどの設計～製造までを行っている。年間1万 tの生産力。
- ・ トルクメニスタンとの契約で6,000万ドル分の港湾建設用（杭として使用）の鋼管を納入する予定。

12:00-12:30 SOCAR Polymer訪問

対応：バフルズ・ハジエフ建設マネージャー代理

SOCAR Polymerについてのビデオ

- ・ アゼルバイジャンの化学産業発展のために2013年7月16日に株式化された。
- ・ 2018年から年間18万 tのポリプロピレンと12万 tの高密度ポリエチレンを製造予定。
- ・ プロジェクトの総予算は7億5,000万ドルで、うち60%がガспロムバンク。残り40%のうちの70%が（つまり全体の28%）SOCARからの資金。100億～110億ドルの総収益（純利益はそのうち30%）をあげる予定。
- ・ アゼルバイジャンは現在低密度ポリエチレンを輸出し、高密度ポリエチレンを輸入しているが、今後は輸出の可能性を高めていくことを目指している。生産物の30%は国内市場向け、70%をトルコやヨーロッパ市場への輸出を目指す。
- ・ SOCARはプロジェクトの環境面も重視しており、エクエーター原則に則り地球環境デザインなどのESOPであるGolder Associatesと協力する。
- ・ 米フルーア社とプロジェクト管理チームを作り、アムステルダムやミラノ、ムンバイと同様に職業プログラムや専門トレーニングを行う。その他に英語レッスンやインターンシッププログラムも行われる予定。
- ・ 建設期には1,200人、操業期には300人が携わる。
- ・ 80億ドルの法人税と固定資産税、70億ドルの付加価値税を政府に支払う予定。

質疑応答

- (Q) SOCAR Polymerには日本企業の設備が入っているので興味がある。
- (A) 技術の専門家なので建設に関する技術的な質問しか答えられない。

- (Q) 建設はアゼルバイジャンの企業が行うのか、海外のゼネコンが行うのか。
- (A) イタリアのTecnimontという企業が入っている。その他ではトルコのÜSTAYという企業とEPC契約を結んでいる。
- (Q) その建設は誰かからファイナンスを受けているのか。
- (A) ファイナンスは70%がロシアのガスプロムバンクから、30%がSOCAR内部から。
- (Q) この工場が出来たら世界一になると思うが、どのくらいの市場規模になるのか。客観的な情報はあるか。
- (A) ポリエチレンとポリプロピレンの二つの計画があり、2017年末にポリエチレンプラントを、2018年10月にはポリプロピレンプラントを完成させる予定。30万tの生産量は世界市場ではそんなに多くはない。アゼルバイジャンでは製造ノウハウがあるからトップになれる。国内市場はすべてカバーでき、その上でトルコ企業と輸出の合意をしている。具体的な数値は言えないが、その他にガラダフでは100万t規模のポリプロピレンのプロジェクトもある。また次のプロジェクトはガス精製プロジェクトで、規模としては今より4倍大きなものになる。
- (Q) ポリプロピレンではトルコ企業より競争力があるということか。
- (A) トルコは技術自体が古くなっていると思う。しかし我々はカナダとイギリスの最新技術を導入しているので製品もトルコのものよりも良くなるはず。
- (Q) 後ろに並んでいるのは製品のサンプルか。
- (A) 違う。これは我々が作るポリマーを使ってできるものの例。ポリエチレンを使って4万種類の製品を作ることができる。
- (Q) 30%が国内、70%が輸出というのは今後の将来計画か。
- (A) 将来の計画ではなくすでに合意した数字。ポリエチレンについてはアゼルバイジャンでは年間5万～6万tしか製造量がない。トルコでは原料がないのでポリエチレンは国内で最大でも年間5万tしか製造していない。そもそも原料の石油はアゼルバイジャンから仕入れているので、アゼルバイジャンで製造した方がより利益が出る。またトルコのポリマーに対する需要は100万tほどあるのでその穴の部分埋められる。輸出先としてはトルコやヨーロッパが考えられる。
- (Q) トルコはアゼルバイジャンから半製品を買い、自分で加工していろいろな製品を作るという戦略なのか。
- (A) そうだ。
- (Q) さきほど資本構成の図があったが4分の3がSOCAR、残りがいろいろな小企業になっていたが、これらはすべてアゼルバイジャン企業なのか。
- (A) 100%アゼルバイジャン企業。
- (Q) SOCAR以外はすべて民間企業か。
- (A) SOCAR以外はすべて民間企業。

他の建物などSCIP内（バス車窓より）

- ・ 近くに450MWの発電所、パーク内には110MWの変電所がある。

- (Q) Azerikimyaは何を製造しているのか。
- (A) ポリエチレン、エチレン、プロピレンなどいろいろなものを作っている。SOCAR PolymerはAzerikimyaから原料を仕入れている。
- (Q) SOCAR PolymerとAzerikimyaの間に資本関係はまったくないのか。
- (A) 直接はないが、どちらもSOCARの子会社。

- ・ フェロシリコマンガン製造のBaku Non Ferrous and Foundry Company社やAlco Lubricant Company社が建設中。
- ・ Azertexnolaynの向かいにはMST Engineeringが建設中（2 ha）。Parkerという米企業の技術を使い高圧対応のホースなどを製造予定。
- ・ スムガイト・テクノロジー・パーク社（STP）はもともと別団体の所属だったが1ヵ月ほど前に入居企業になった。

(Q) STPにはどんな企業が入っているのか。

(A) ケーブル類（1,000種以上）、プラスチックパイプ、サンドイッチパネル、トランスフォーマー製造などの17社。

(Q) それらの企業はアゼルバイジャン企業か外国企業か。

(A) アゼルバイジャン企業。

- ・ その他、建機やSamsungの請負会社の工場を建設中。

■バラハニ・インダストリアル・パーク視察

日時：2017年2月24日（金）15:15～16:15

場所：バラハニ・インダストリアル・パーク

対応：サブヒ・メフディザデフ Tamiz Shahar JSC副会長

ファイグ・ママドフ プロジェクトマネジメント・PR部長

ハヤル・アガミロフ プロジェクトマネジメント課長

ヤヒヤ・アリエフ PR担当

内容：

バラハニ・インダストリアル・パークについての説明（ファイグ・ママドフ プロジェクトマネジメント・PR部長）

- ・ 2011年12月28日大統領令によって設立。市の中心からは車で15分程度。
- ・ インダストリアル・パークの面積は7 ha。二つの区画に分かれている。ごみ集積場の近くに廃棄物発電プラント（Waste to Energy Plant）がある。その他、廃棄物の分別場と埋立て場がある。分別場で分別されたものが運ばれてきてここで加工を行うため輸送面で便利。
- ・ 政府からの公的資金による建築物と民間投資による建築物が建設される予定。2017年6月末にオープニングセレモニーを行う。主なパーク内施設はウェイトブリッジ、倉庫、銀行、郵便局、補修工作室、オフィスビル、管理ビル、工場など。
- ・ ターゲットとする産業はプラスチックリサイクル、タイヤ・ゴムリサイクル、廃電気電子機器リサイクル、鉛蓄電池リサイクル、非鉄金属・ケーブルリサイクル、有害廃棄物リサイクル。
- ・ 現在建設中の入居企業は5社。“Foriella”LLC（テーブルやいすなど家具製造）、“Ekokat”LLC（使用済モーターオイル処理や基油製造）、“Az.Ekol.” LLC（ペットボトル処理）、Individual entrepreneur Etibar Eminov（印刷・ポリグラフ製品）、“MET-AK”LLC（リサイクル済プラスチックを原料にする非鉄金属製錬所）。
- ・ 投資家へのインセンティブとして、登録後7年間の法人税、利益税、土地税、固定資産税、付加価値税、製造設備や原材料の輸入関税の免除がある。国内企業だけでなく、外国企業も広く受け入れる。
- ・ 年間2億3,150万KWの廃棄物発電プラントにとっても近いというのもメリット。パーク内企業はこの電力を利用できる。将来的には緊急時の利用も可能になる。さらに、パーク内での製品製造過程で出る廃棄物や副生成物を別の製品の原料として利用できるので、すべてを再利用できる仕組みになっ

ている。

- ・ 3フロアのオフィスビルも建設予定。
- ・ バラハニ・インダストリアル・パークはエコ・インダストリアル・パークであり、経済、社会、環境が主な領域。
- ・ グリーンビジネスの点から、2018年から国家基金から支援を受けられるようになる。負担は月々のレンタル代2〜3マナト（約1.5ユーロ／1 m²）だけで済む。オフィスビルも月3.5ユーロほど。1,000 m²の敷地であればインダストリアル・エリアで1,500ユーロ。他のエリアはもっと高いが、インダストリアル・エリアとオフィス区域はこの値段。その他0.7ユーロ／1 m²の場所もある。水やガスなどインフラ面では政府の支援もあり、すべて整っている。将来的には民営化する契約をすでに結んでいる。

(Q) 入居企業はすべてアゼルバイジャン企業か。

(A) 現在はすべてアゼルバイジャン企業。

(Q) 外国企業の入居は予定しているのか。

(A) もちろん。いくつかの国際的な企業と投資ミーティングを行っている。また国際的な銀行とはすでにいくつかのプロジェクトにおける協力を始めている。

(Q) そのオペレーションに外国企業は。

(A) 残念ながら現在はまだない。なぜならプロジェクト開始時の2013年には誰も情報をもっていなかったから。プロモーション開始後は2年経たないうちに政府の支援はすべて終了してしまい、今はコンペを行っている。MOUを締結し、その後インダストリアル・パークを訪問してもらい、投資プランと関連情報のチェックを行い、ようやく居住区・免税の提供証明を渡すことができる。トルコのいくつかの企業に関心をもっており、今後交渉を行う予定。

- ・ 新エリアでは鉛蓄電池やタイヤなどリサイクル企業を予定している。我々にとって重要なのは環境面のため、どのような企業も受け入れるわけではない。経済的、社会的で環境保護に重点を置いた企業のみ。環境維持・資源の持続的利用を主要ポイントとしている。

15:45～16:45 バクー廃棄物発電プラント視察

対応：アリフ・カリモフ 都市廃棄物利用部長代理

- ・ 将来的な埋立ての必要性を下げ、ごみの熱処理による発電を目的に設立。
- ・ 廃棄物発電プラントでは年間50万 tの家庭・商業無害廃棄物を取り扱っており、年間231MWの発電量。
- ・ プラントは7日間24時間ノンストップで稼働している。5人のオペレーターが3シフトで交代勤務。
- ・ 全体の流れとしては、トラックで集積場に運び込まれたごみを、クレーンオペレーターが古いごみと混ぜ、ボイラー焼却炉へと移され、その後排ガス処理が行われる。ボイラーシステムはドイツ、排ガス処理システムはフランス企業のもの。過程はカメラを通し管理パネルで確認できる。
- ・ 今の時期は（2月）毎時23～24MWの発電量。ごみがもっと湿っている季節は34～35MW。
- ・ 最終的にボトムアッシュとフライアッシュができ、販売をしている。ボトムアッシュは道路建設に使用される予定で、Baku Steel Companyなど道路建設の企業と交渉を行っている。このプラントの利点は設備をヨーロッパから導入している点にある。

(Q) フランス企業は投資していないのか。

(A) “CNIM” S.A.は建物のデザインから建設、オペレーションシステムと技術サービスまで提供している。建築費用は総額3億4,600万ユーロ。EPC契約／ターンキー契約。

(Q) 量としては100万 t 販売できるのか。

(A) できる。

(Q) フライアッシュの買い手はセメント製造に使うのか。

(A) その通りで、現在スイス企業と交渉中。毎日 62 t のフライアッシュが生産される。

4. プログラムの様子



ピララヒ・インダストリアル・パーク予定地



SCIP についてのプレゼンテーションの様子



Azertexnolayn 視察の様子



バクー廃棄物発電プラント視察の様子

以上